

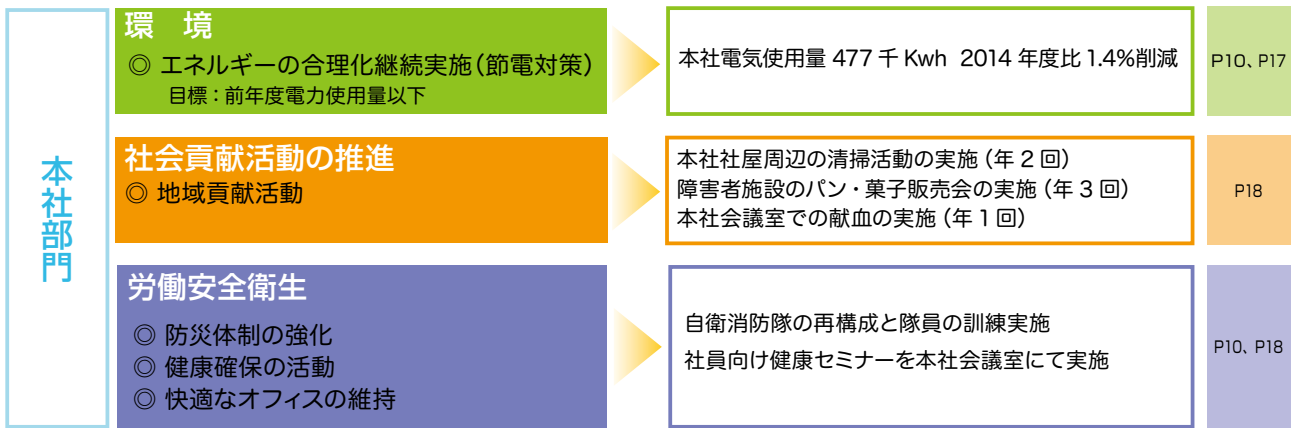
全社重点目標 (2015年度の結果及び主な状況)

2015年度
重点目標

スローガン：EHS - HOPE100

杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

	重点目標	結果及び主な状況	記載頁
全社目標	環境 ◎ エネルギー合理化 CO ₂ 排出削減 (KPI) 2015年度までの目標：対2009年度比25%減 * 2015年度は15,824 t以下のCO ₂ 排出量を目標とします。 ◎ 廃棄物の削減	2015年度CO ₂ 排出量：19,840 t ☆トピックス参照 工場・研究所を中心にリサイクルなどに取り組み、廃棄物を削減 2015年度廃棄物量：638t 最終処分量 21 t 最終処分率 3.3%	P7～P8
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	継続的な地域貢献活動、周辺住民の皆様とのコミュニケーションを図るため各種イベントを各事業所で予定通り実施	P8
	労働安全衛生 ◎ 休業労災ゼロ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	全社で1件の休業を伴う労働災害が発生	P8～P9
製造部門 研究開発部門	環境 ◎ CO ₂ 削減策の検討と実行 ◎ 廃棄物の削減 最終処分率 5%以下	2015年度CO ₂ 排出量：18,768 t 2015年度廃棄物量：638 t 最終処分量 21 t 最終処分率 3.3%	P9、 P12～P15
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動の推進 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	周辺住民の皆様をご招待して観桜会、納涼会実施 地域への清掃活動などを通じての社会貢献活動を実施	P13、P15
	労働安全衛生 ◎ 休業労災ゼロ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	わたらせ創薬センターでは休業・不休の労働災害が各1件発生 岡谷工場では不休の労働災害が1件発生	P13、P15
営業部門	環境 ◎ 効率的な運転で燃費向上 目標：前年度燃費より1%改善（前年度13.6.km/ℓ） ◎ 省エネ活動：空調等節電	営業車両燃費：14.2km/ℓ、燃費は2014年度比4.4%改善 本社・支店エネルギー使用量：511KI（原油換算）、2014年度比8.9%削減	P10、P16
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ MRの普通救命講習受講	各事業所周辺の清掃活動などを通じて社会貢献活動を実施 MRの普通救命講習受講と前年度受講者への継続的教育を進めた	P16
	労働安全衛生 ◎ 事故率5%以下への具体的検討と実施 車両事故の削減：事故率18%未満	2015年度車両事故：183件発生（50%以上有真事故） 事故率：19.6%	P10 P16～P17



☆トピックス KPI (Key Performance Indicators : 主要業績評価指標について) ☆

生物多様性の保全の為に、地球温暖化ガス(CO₂)削減をKPIに設定しています。

杏林製薬各事業所と関係するグループ会社によるCO₂削減プロジェクトを推進し、CO₂削減に向けた会議を毎年実施しています。

基準年度と排出量：* 2009 年度 * 【21,099 t】

中長期目標値：* 2015 年度 * 【15,824 t】(基準年度 25%削減→HOPE100 ステージ I 出口目標)

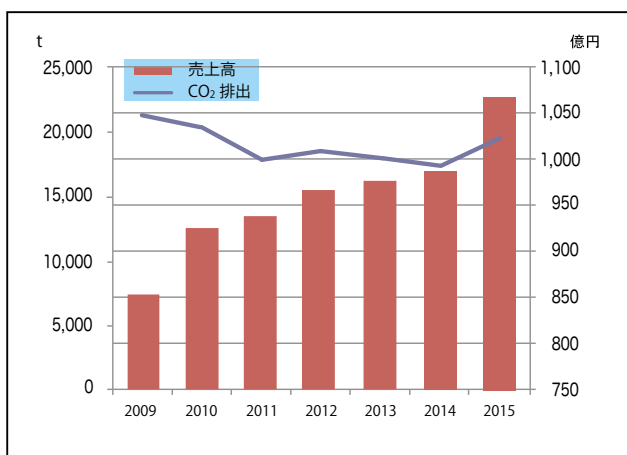
年度毎の目標値と実績は以下のとおりです。(CO₂排出量は定期報告書で報告した数値です。)

年度	* 2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	* 2015 年
目標 (t)	* 【21,099】	20,219	19,339	18,459	17,579	16,699	* 【15,824】
排出量 (t)	21,099	20,187	17,815	18,417 (17,182)	17,919 (15,891)	17,389 (15,641)	19,840 (17,681)
総売上(億円)	853	925	937	959	976	985	1,064

2015 年度の全社使用エネルギー(原油換算)：8,485kl(前年比 18.4% 増加)

2015 年度の CO₂ 排出量は前年比 2,451 t 増加しました。原子力発電が停止し、電気事業者の CO₂ 排出係数が大幅に増加しております。原子力発電稼働時の推定排出量は 17,681 t となりました。

売上高と CO₂ 排出量



基準年度である 2009 年度と比較して 2015 年度は以下の結果となりました。

1. CO₂ 排出量：6.0% 削減
2. 売上高：24.7% 増加

2015 年度の CO₂ 排出量は 19,840 t となり、目標の 2009 年度比 25% を達成することが出来ませんでした。

理由 ① 原子力発電所停止による電気事業者の CO₂ 排出係数の大幅増。

② 2015 年度より旧創薬研究所と旧開発研究所を集約したわたらせ創薬センターが稼働したため、エネルギー使用量が増加しました。

※ ①、②共に目標設定時には想定をしておりませんでした。

全社対応

環境

○ 改正省エネ法の対応

2015年度は2015年7月に定期報告書と中長期計画書を提出いたしました。またCO₂排出量の削減策を検討するために、CO₂削減プロジェクトミーティングを実施し、杏林製薬各事業所と関係するグループ会社と共に対策案を検討し、更にグループ会社間相互に各事業所の設備等を見学することによりCO₂削減に関する情報共有をいたしました。

○ カーボンオフセット印刷の導入

2011年度より、一部印刷物にマイナスカーボンプリンティングシステムを導入いたしました。このシステムを導入することで、印刷物の発注と共に、CO₂の削減と節電に貢献することができます。2015年度は167kgのCO₂を削減しました。

*マイナスカーボンプリンティングシステム：リユース可能なCTP版「マイナスカーボンプレート」を使用することでCO₂削減に貢献できる印刷システムです。

社会貢献活動の推進

○ ひまわりプロジェクトの参加

東日本大震災発生後、震災復興・環境緑化支援民間プロジェクトである「ひまわりプロジェクト」へ2011年度から参加しました。2015年度もわたらせ創薬センターで300本のひまわりの苗をつくり、宮城県名取市へ寄附いたしました。寄附の際は、本社・仙台支店の社員がイベントに参加。市民の皆さんと共に苗の植え付けをしました。

労働安全衛生

○ 緊急時の社員安否確認システムの確立

2012年度に震災をはじめとする災害時の社員安否確認ツールとして、安否確認システムを導入しました。2015年度も同システムの実効性を向上させるため定期的訓練を行っています。

○ 緊急時初動対応手順書(ERP)の導入

2012年度は災害発生時の安全確保と二次災害防止を目的とした手順書を本社で作成しました。

2015年度は各工場・研究所への展開と訓練を進めています。

○ 労働災害の発生状況について

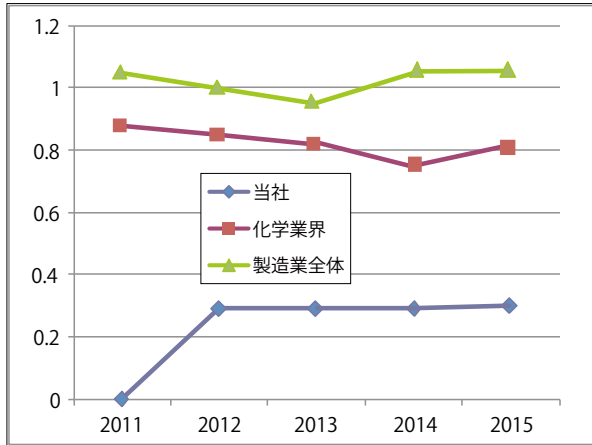
工場・研究所では休業労災が1件発生しました。休業を伴わない労働災害事故は2件発生しました。いずれも、各事業所で適切に対応し、再発防止策を実施しました。その他、労働安全衛生では特殊健康診断を実施し社員の健康管理を実施しています。

年度	労災件数	通院のみ	休業 1～3日	休業 4日以上	延損失日数	従業員数 (年度末)
2011	32	32	0	0	0	1,798
2012	27	26	0	1	25	1,797
2013	20	19	0	1	37	1,780
2014	34	33	0	1	5	1,771
2015	19	18	0	1	14	1,731

○当社の労働災害の度数率・強度率について

当社は、労働災害防止の取り組みにより度数率・強度率とも、製造業全体の水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

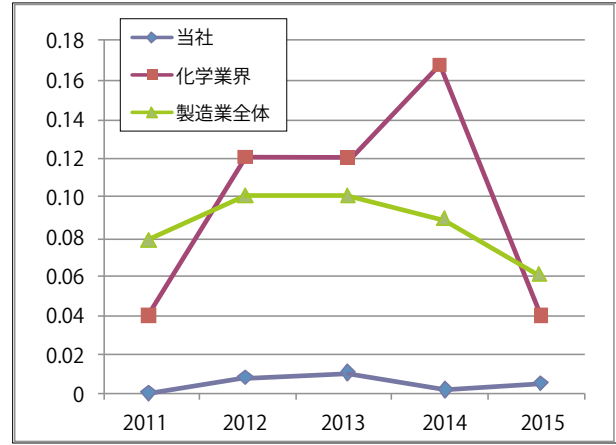
○ 度数率



年度	当社	化学業界	製造業全体
2011	0.00	0.88	1.05
2012	0.29	0.85	1.00
2013	0.29	0.82	0.94
2014	0.29	0.76	1.06
2015	0.30	0.81	1.06

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（災害発生頻度を表す）
算出方法 = 労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数 × 1,000,000

○ 強度率



年度	当社	化学業界	製造業全体
2011	0.000	0.04	0.08
2012	0.006	0.12	0.10
2013	0.010	0.12	0.10
2014	0.001	0.17	0.09
2015	0.004	0.04	0.06

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す）
算出方法 = 延労働損失日数 / 延実労働時間数 × 1,000

研究開発部門・製造部門

環境

○ CO₂ 排出量削減について

「2015年度までに2009年度比25%削減」を目標として2015年度も省エネルギー化された設備の導入、事業所毎の節電活動を継続してきた結果、CO₂排出量は18,768 tとなりました。（原油換算で7,974 k l、前年6,605 k l）。

○ 廃棄物の削減について

廃棄物発生量が638 t（前年659 t）となりました。廃棄物最終処分率は3.3%となり、目標の5%以下を達成しました。

営業部門

環境

○ CO₂ 排出量削減について

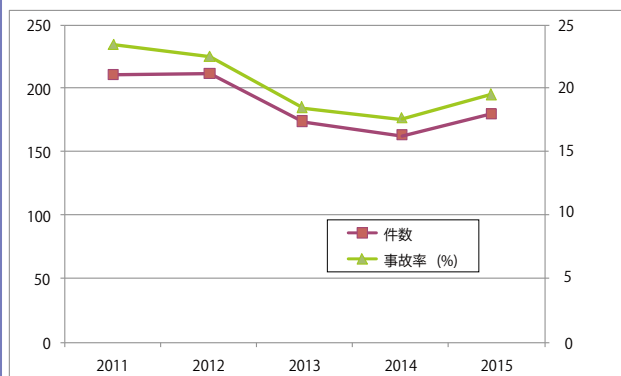
CO₂ 排出量を抑えるため、2015 年度は効率的な運転による営業車両の燃費向上（1 台あたり前年度燃費より 1% 改善：13.6km → 13.7km）を目標に取り組みを進めてきました。営業車両にハイブリット車両の導入やエコドライブの推奨など、環境に配慮した対策を実施し、年度平均で 14.2km/ℓ（4.4% の燃費改善）と目標を達成することができました。

労働安全衛生

○ 車両事故の削減について

2015 年度は、駐車場内での後進駐車 of 徹底、交差点内での安全確認の徹底、新入社員への研修強化などを継続実施しましたが、結果として車両事故件数（50% 以上有責事故）は 183 件となり、前年度の 163 件から増加しました。今後も一層の取り組み強化により車両事故発生を削減していきます。

車両事故件数（当方責任 50% 以上）物損事故のみも含む



年度	2011	2012	2013	2014	2015
件数	211	212	176	163	183
事故率 (%)	23.3	22.8	18.7	17.4	19.6

本社部門

環境

○ 節電対策の実施

本社部門では 2013 年度にオフィス移転をおこない耐震対策と省エネ対策を強化しました。職場環境のリスクアセスメントを行うことで、職場環境を向上しました。

温度管理の徹底などエネルギーの合理化（節電対策）により、電力使用量前年度以下を目標に取り組みを進めてきました。

労働安全衛生

○ 心身のリフレッシュについて

本社社員の健康管理への取り組みとしてストレッチなどの体験を通じた健康セミナーを本社内にて実施しました。ノー残業デイの実施、VDT 障害対策などの対応を実施しました。

○ 防災体制の強化

自衛消防隊の再構成と隊員の訓練を行い、防災対策を強化しました。

本社が被災した際の人命救助体制を強化するため、上級救命講習を EHS 推進委員のうち 4 名が受講しました。

☆ 環境に対する継続的取り組みと自己評価 ☆

取り組み目標	達成手段	2015 年度計画 (数値目標含)	2015 年度実績	自己評価	記載頁
1. 地球温暖化防止 (CO ₂ 削減と省エネ)	新規設備投資による燃料使用量削減 (原油換算)	7,166 k l (2014 年度実績)	8,485kl(118.4%)	★	7, 29
	エコカー導入による燃費向上と排ガス削減	934/939 (99.5%、2014 年度実績)	938 / 938(100%)	★★★★	16
	CO ₂ の総排出量の削減	15,824 t (原子力発電稼働時)	19,840 t (原子力発電稼働時 17,681t)	★	6, 7
2. 廃棄物発生量の削減	排出総量の削減	659 t (2014 年度実績)	638 t	★★★★	6, 29, 32
	リサイクル促進	48% (2014 年度実績)	50.8%	★★★★	29, 32
	最終処分量	27 t (2014 年度実績)	21 t	★★★★	6, 29, 32
	最終埋立量ゼロへの挑戦	5.0% 以下	3.3%	★★★★	6, 29, 32
3. 化学物質の管理	PRTR法対象物質管理と見直し	9.8 t (2014 年度実績)	7.7 t	★★★★	29, 34
4. 大気汚染の防止	ボイラー・発電機よりのばいじん・NO _x 、SO _x 排出量測定管理	継続測定	基準値以下	★★★★	29, 33
5. 水質汚濁の防止	排水処理棟、一次処理装置による処置、pH、BOD・SS管理	継続測定	基準値以下	★★★★	29, 33
6. 森林破壊の防止	用紙リサイクル、再生紙使用、業務のペーパーレス化促進	48 t (2014 年度実績)	38 t	★★★★	29, 34
7. オゾン層破壊の防止	特定フロン使用機器の全廃	2010 年度全廃完了	—	★★★★	11
8. 地盤沈下の防止	地下水利用を削減し 上水利用率向上	81.1% (2014 年度実績)	83.1%	★★★★	29, 31
9. 騒音の削減	定期測定	継続測定	基準値以下	★★★★	34
10. 生物多様性の保存	地域住民とのコミュニケーション (地域貢献活動)	事業所個別に計画	全事業所計画達成	★★★★	6, 7, 22~26
11. 環境情報の公開	環境報告書の作成、公開	8 月 WEB 公開	8 月 WEB 公開	★★★★	本書

注 1

注 2

注 3

自己評価について：★★★★達成 ★★★ほぼ達成 ★更なる取り組みが必要

注 1) 平成 17 年排出ガス基準 75%低減の車両台数です。

注 2) PRTR物質の大気、土壌への排出はゼロです。

注 3) 生物多様性の保全について

当社は生物多様性の保全が国際的な重要課題であると認識しております。2012 年 1 月に日本製薬工業協会が「生物多様性に関する基本理念と行動指針」を公表しました。当社の環境に対する継続的な取り組みは製薬協の行動指針に適合しております。

岡谷工場の諏訪アダプトプログラム (24 頁) や能代工場の旧金勇の保存活動 (24 頁) 等の各事業所での社会貢献活動など地域社会とのコミュニケーションを図る取組み、及び従業員に対する環境教育を継続的に実施してまいりました。

今後も、国際社会や国内の動向、先進企業の取組みに関する情報収集を継続し、当社としての生物多様性の保全への取り組み強化に努めてまいります。



ガス吸収式急速式冷凍機

臭化リチウム-水を冷媒としておりフロンを使用しておりません。動物実験室の冷房に使用しております。



コ・ジェネシステムとは？

灯油発電機で作った電気を利用し、そのとき発生した廃熱をエアコンなどの動力源に再利用するシステムです。